

達成度調査等及び児童の学習状況から見た成果と課題 ○成果 ▲課題

	第4学年	第5学年	第6学年
国語	○どの領域においても、区の平均正答率を上回っている。 ▲「書くこと」の領域は、平均正答率50.5%となり、他の項目よりやや低い。	○「読むこと」は区の平均を大きく上回っている。 ▲「情報の扱い方」の正答率は区の平均正答率よりやや低い。	○「言葉・情報・言語文化」「話すこと・聞くこと」の領域は、区の平均達成率とはほぼ同等である。 ▲「書くこと」「読むこと」については、区の平均正答率をやや下回っている。
社会	○どの領域においても、区の平均正答率を上回っている。 ▲「歴史と人々の生活」の領域は平均正答率が他の領域より10ポイント程度低い。	○どの観点・領域においても、平均正答率が高い。 ▲記述式の平均正答率が64.2%であり、区や国を上回っているものの、やや低い。	○どの領域でも区の平均達成率を上回っている。 ▲短答式の平均正答率が49.6%であり、区の平均正答率を下回っている。
算数	○「数と計算」の領域において、区の平均正答率を上回っている。 ▲「思考・判断・表現」の観点が平均正答率59.5%となり、やや低い。	○全ての観点・領域で区の平均正答率を上回っている。 ▲「角」の単元については正答率が区の平均正答率よりやや低い。	○「データ活用」の領域については、区の平均正答率をやや上回っている。 ▲「数と計算」「図形」「変化と関係」については区の平均正答率をやや下回っている。
理科	○どの領域においても、区の平均正答率を上回っている。 ▲「思考・判断・表現」の観点が平均正答率59%となり、やや低い。	○「思考・判断・表現」の観点が区の平均正答率を上回っている。 ▲「生命・地球」の領域の正答率は、区の平均正答率とはほぼ同等である。	○「生命・地球」の領域については、区の平均正答率とはほぼ同等である。 ▲「物質・エネルギー」については、区の平均正答率をやや下回っている。

授業改善の方針

国語	・物語文や説明文の読み取りでは、しっかりと内容を読み取る時間を設け、一人一人が読み取れているかの確認をする。また、「書くこと」に関して、書き方のモデルを提示し、抵抗なく取り組めるようにする。書いた文章を見合う活動を入れることによって、よりよい表現に触れる機会を設ける。
社会	・学習した内容を確かな知識として定着させるために、日常の授業からICTを活用して資料提示の工夫を行い、視覚的にも学習内容が整理して記憶されるようにする。 ・「思考・判断・表現」の力をより向上させるために、実社会とのつながりを実感できるように学習問題づくりを工夫し、よりよい社会づくりという視点で考えを表現できるようにする。
算数	・児童の理解度を把握し、授業の終末に着実に知識・技能を身に付けられるように個に応じた課題に取り組ませる。 ・様々な考えや分かりやすいノートのみとめ方など、友達のよさを自分の学びに生かせるように考え方の交流をする時間を意図的に設ける。
理科	・生活経験の中での科学的事象に触れる機会の少なさも、実験結果を考察する際に先行学習の知識に寄せて結果を解釈する傾向がある。実験結果を客観的に捉えて自身の仮説と比較しながら結果を疑うことも、視点として意識させていく。
音楽	・曲のもつ魅力や作詞者、作曲者の想いを知り表現に生かすようにする。また、友達と共に音楽を創り上げる楽しさや達成感、成就感が味わえるように指導・支援していく。
図工	・児童が題材に興味・関心をもつように、他教科との連携や専門の外部講師から学ぶ等、色々な芸術に触れつつ制作をさせる。また、見本や写真等を提示することで、自分なりにより豊かな発想で考え、表現できるようにする。
家庭	・スモールステップを意識した学習やICT機器の活用、実習の効率化と充実などを進め、基礎的な理解と技能の向上を図る。また、家族の一員として学習したことを家庭で実践できるように、児童一人一人が自信と意欲をもてるよう声掛けをしていく。
体育	・児童一人一人が「何を、どのように身に付けるか」見通しをもって学習に取り組めるような学習計画を立てる。 ・毎時間めあてをもって学習に取り組ませ、課題解決的な学習になるようにする。 ・児童一人一人の課題解決が適切に進むように、場づくりや言葉掛けなどを工夫し、確実な技能の習得につながるようにする。
外国語	・4技能5領域をバランスよく学習できる学習計画を立てる。 ・振り返りの時間を設定し、自分の学習状況を把握できるようにする。英語を使うことに抵抗を感じないようにするために十分にインプットとアウトプットの時間を設ける。 ・自分の生活に関係する内容で言語活動を設定し、必要性を感じてやり取りができるようにする。